

【規模】

主要構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、4階建
 敷地面積：12,429.75㎡ (3,760坪)
 建築面積：6,271.07㎡ (1,897坪)
 延床面積：24,852.89㎡ (7,518坪)

各階別の規模	収容能力	
1階	1,475.54㎡ (446.35坪)...	3,001.24t
2階	1,475.54㎡ (446.35坪)...	3,001.24t
3階	1,475.54㎡ (446.35坪)...	3,001.24t
自動ラック部分	2,508.00㎡ (758.67坪)...	18,545.15t
合計	6,934.62㎡ (2,097.72坪) ...	27,548.87t

【収容能力】

1階：移動ラック倉庫（冷凍）	7,503.12㎡ (1,617棚)
2階：移動ラック倉庫（冷凍）	7,503.12㎡ (1,698棚)
3階：移動ラック倉庫（冷凍）	7,503.12㎡ (2,002棚)
自動ラック倉庫（冷凍）	46,362.88㎡ (8,172棚)
合計	68,872.24㎡ (13,489棚)

【情報システム】

基幹 OA システム
 ・倉庫管理システム 自社開発 新 WMS
 ・デジタル運行管理システム
 ・自動配車システム

物流管理システム
 ・自動倉庫管理システム
 ・無線 LAN システム
 ・ハンディーターミナル 24 台

【物流ネットワーク】



【施設・設備】

ドックシェルター：20バース（エアシェルター2基）
 垂直搬送機：2基（1～3階） カーゴ搬送機：1基（1～2階）
 貨物用エレベーター：1基（1～3階）
 リーチフォークリフト：31台
 24時間監視カメラ：12台
 冷却設備：1～3階荷捌室 内部陽圧空調設備（1階・2階・3階）
 温度管理：集中温度管理システム
 LED照明採用

【物流設備・機器】

自動ラック倉庫
 能力：入庫 100PL/H 出庫 100PL/H
 スタッカークレーン：シングルフォーク 4台
 ツインフォークダブルリーチ 3台

遠隔監視モニター：2台
 ピッキングステーション：1階ピッキング 4ライン
 空パレットマガジン：2台

【車両】

保有台数：27台

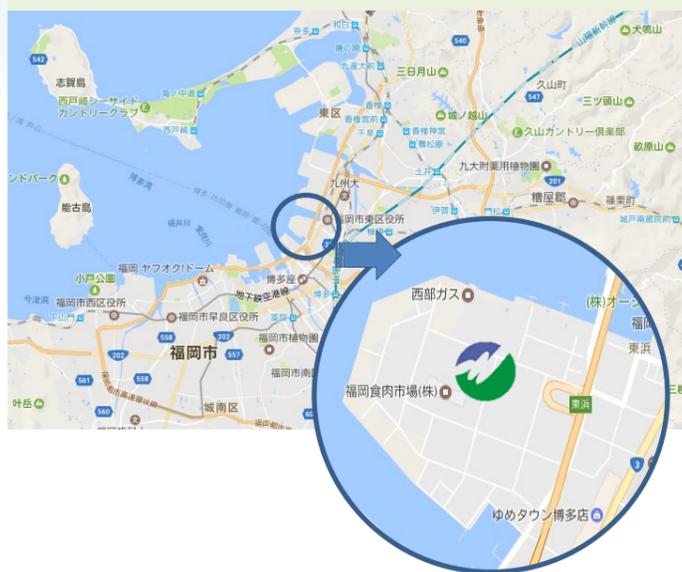
【AEO制度】

当社は特定保税承認倉庫業者です。（税関承認）
 九州支店も 2009年9月保税倉庫の認可を受けました。



【アクセス】

福岡市都市高速・東浜ランプから約300m



「人と技術と伝統」で仕組みを創る物流情報企業

九州支店

INFORMATION

3 温度帯に対応した複合型物流センター

1997年 7月竣工

セキュリティシステムと
マテハン設備を兼ね備えた、
高機能物流センター

自動ラック倉庫



1986年自動無人ラック倉庫システムを導入以来、耐震対策等の技術開発を行い、更なる利便性、作業効率UPを追及しています。入出庫作業はすべてコンピューター制御の搬送機とスタッカークレーンで行われ、過酷な環境下での荷役作業負担を軽減し、物流品質の向上を支援します。自社の保守員が常駐し、メンテナンス体制も万全です。

ピッキングステーション



CCR



自動ラック倉庫の集中管理室無人化された倉庫内をリアルタイムで監視し、異常感知時はアラートを発し、自社の保守員による迅速な調査・対応が可能です。

アッシュフォード (床材)



(防塵・摩耗防止/劣化防止・表面強化/初期養生効果/密閉効果)

コンクリート中の石灰分との化学反応によってコンクリートの表面を保護・強化する無色・無臭・無公害の浸透性コンクリート半永久表面強化剤。

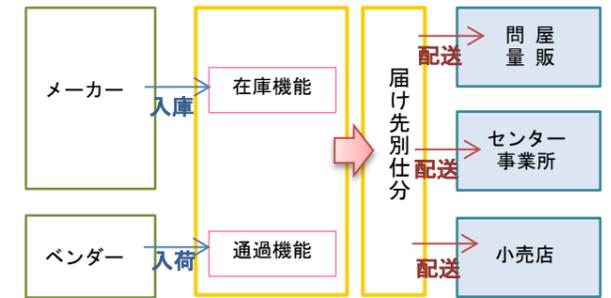
デジタルタコグラフ



(グループ導入率 100%)

当社グループは、1999年11月から、順次デジタルタコグラフを導入しております。車両走行中の最高速度超過やそのオーバー時間、急発進・急減速、アイドリング時間などが常時記録され、交通事故防止、燃費向上、そしてCO2削減などに着実な成果を上げています。

複合型物流センター 概要



移動ラック倉庫



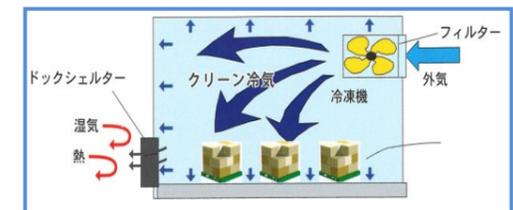
均等散開通路方式により、作業・冷却効率の向上を実現。コンピューターによるロケーション管理を行い、「歩かない、考えさせない、探させない」をコンセプトに設計されています。

セキュリティシステム



昨今の「食品テロ」から製品を守るためにフードディフェンスへの取り組みが広がっております。当社はフードディフェンスを物流の面から強化サポート致します。

内部陽圧空調システム



クリーンな冷気を積極的に庫内に送り込み、外気(湿気・塵・熱)の流入をシャットアウトして衛生的な環境を維持しております。

冷凍能力の向上



2層式車両

中間に「間仕切り」を設け、また冷気の吹出し口を前室と後室に独立して設けることにより、扉開閉時の冷気のロスを最小限に軽減しております。